ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

集塵式エンジンカッタ

EK732A

⚠ 注意

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。又、内容をよく理解したうえでご使用ください。不適切な操作や保守は、重大な事故につながるおそれがあります。なお、本書はいつでも利用できるように、大切に保管してください。

目　次

	頁
1．安全にご使用いただくために	1
1－1　ご使用前に	2
1－2　キックバック	5
1－3　給油	5
1－4　始動	6
1－5　作業	7
1－6　停止	8
1－7　点検・整備	8
1－8　移動・保管	9
2．仕様	10
3．各部名称	11
4．組立の手順	13
4－1　外観と付属部品のチェック	13
4－2　刃物の取り付け	13
4－3　集塵ホースとダストバックの取付	14
4－4　サブダクトの使用方法	14
5．エンジンの始動と停止	14
5－1　燃料の給油	14
5－2　エンジンの始動	16
5－3　始動困難なとき	18
5－4　停止	19
6．切断作業	19
6－1　切断作業	19
6－2　効率のよい使い方	20
6－3　集塵に対しての効果的な切断	20
7．点検・整備	21
7－ 1　エアクリーナーの清掃	21
7－ 2　キャブレターの調整	23
7－ 3　スパークプラグの点検	25
7－ 4　シリンダーフィンの清掃	26
7－ 5　ベルトの点検	26
7－ 6　ベルトの張りの調整	26
7－ 7　ベルトの交換	27
7－ 8　ダイヤモンドホイールの点検	28
7－ 9　刃物の交換	29
7－10　ダイヤモンドホイールの目立て	29
7－11　燃料フィルターの点検	30
7－12　クラッチ部ベアリングへのグリース注入	30
7－13　ギャ部のグリス入れ替え	30
8．長期保管	31
9．修理を依頼する前に	32
10．別販売品のご紹介	33

エンジンカッタをご購入いただきまことにありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書でわからない事がありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所におたずねください。

本機は、高速回転する刃物（ダイヤモンドホイール）でコンクリート、鋳鉄管、鋼材などを切断する機械です。事故や災害を予防するために安全予防を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因となります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠危　険　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。**

⚠警　告　**取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。**

⚠注　意　**取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。**

〈注記〉本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項

1．安全にご使用いただくために

安全標識の説明

この取扱説明書をよくお読みください。また内容をよく理解したうえでご使用ください。

本機を運転中は常に耳栓、防じんマスク、保護めがね、保護帽を着用してください。

キックバック注意。刃物の上半分で切断しないでください。

飛散物に注意してください。

1－1．ご使用前に

⚠ 危　険

- 本機は、ダイヤモンドホイール専用機です。といしを装着して使用しないでください。
- 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）に本機を使用させないでください。
- 作業する場合、本機を使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰かが近づいてきた場合は、エンジンを停止させてください。
- 回転している刃物に触れないでください。
- 本機の使用は換気が良好な場所で行ってください。閉鎖された場所（室内、倉庫、トンネルなど）では、本機を運転しないでください。エンジンの排気により、ガス中毒をおこしたり、酸欠状態になり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警　告

- 排気の方向には人がいない事を確認して運転してください。
- 排気ガスを吸わないでください。
- 本機の改造は行わないでください。またガード類やマフラーを取り外して運転しないでください。

●本機は、一人用の機械です。一人で取り扱ってください。

●疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。

●裾のひらひらした服、ネクタイ、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。また裸足で作業をしないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。

●靴は底に滑り止めのついた安全靴を使用してください。

●雨の日は、滑りやすいので作業をさけてください。

●弊社が推奨している刃物以外は使用しないでください。

●安全な作業場所及び安定した足場を確保して作業してください。

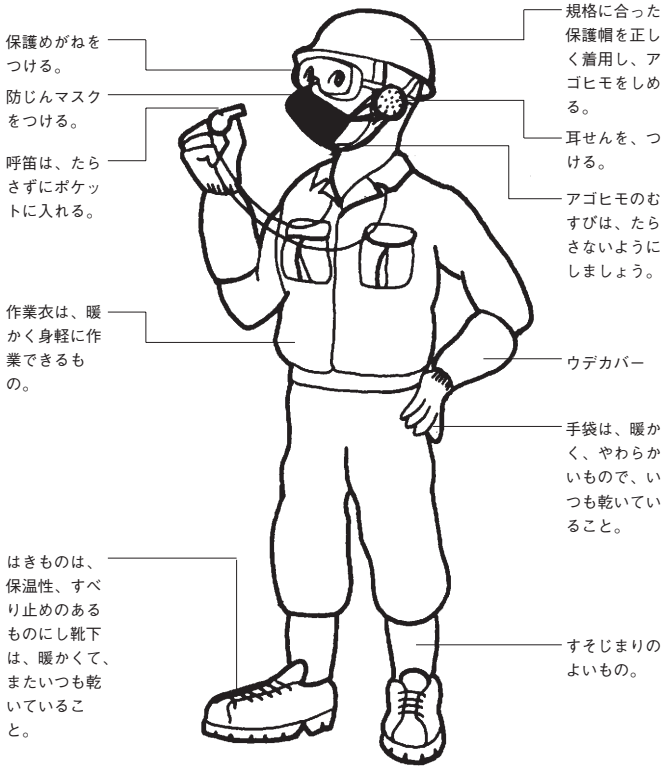
●作業前に作業場所をきれいにしてください。石、金属片、ガラスは飛散して危険です。

●飛散物やほこりから目を守るため、付属の保護めがね、または同等品を着用してください。

●耳栓をつけてください。聴覚障害をおこすおそれがあります。

●規格にあった保護帽（ヘルメット）を正しく着用してください。落下物によりけがをするおそれがあります。

●本機の操作時間は 1 日 2 時間以内にとどめ、10分以上の連続運転はしないでください。
振動障害をおこすおそれがあります。



- 寒冷の時には、長時間の作業はしないでください。

- 厚手で滑り止めの付いた防振性のある手袋を着用して手を保護してください。

- 規格にあった防じんマスクをつけてください。呼吸器障害をおこすおそれがあります。

- ガソリンを使用しますので、本機のそばで喫煙やたき火はしないでください。

- 作業前に燃料漏れがないか確認してください。

- マフラーや、マフラーから出る排気ガスは非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。

⚠注　意

- 作業前にネジの緩み、脱落と刃物の消耗を点検し、異常のないことを確認してください。

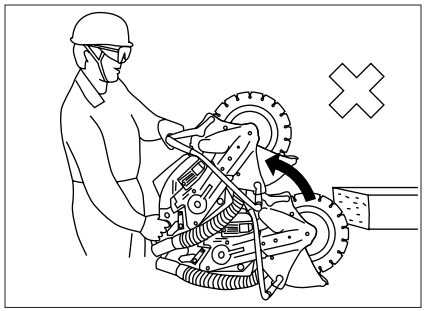
- ベルトの張りの調整が適切に行われ、適正な張りぐあいを保っており、プーリーカバー、クラッチカバーがしっかり締め付けてあることを確認してください。

- 作業に当たってはその作業地域の規則、取り決めにしたがってください。

1－2．キックバック

⚠危　険

刃物の上側半分で切断作業を行うと、切断材と刃物の切断抵抗が急激に大きくなった時に、刃物先端が回転の反動ではねあがり、たいへん危険です。この反動をキックバックと言います。この場合、運転者は本機をコントロールできなくなり、重大な事故につながる場合があります。刃物の上側を使って切断をしないようにしてください。



1－3．給油

⚠警　告

- 無鉛ガソリンと 2 サイクル専用オイルの混合、及び給油は屋外の火気のない場所でおこなってください。給油はエンジンを停止し、燃料が吹き出す事があるので、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。

- こぼれた燃料は本機から拭き取ってください。引火するおそれがあります。

●燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

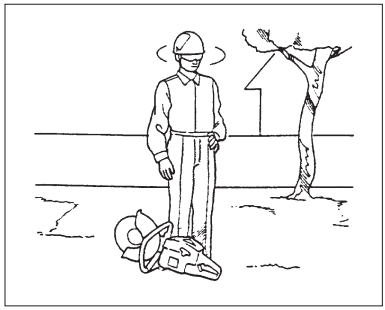
1－4．始動

⚠危　険

●エンジンを始動する場合、刃物が地面や他の物に接していないことを確認してください。エンジンを始動するとすぐに刃物が回ります。

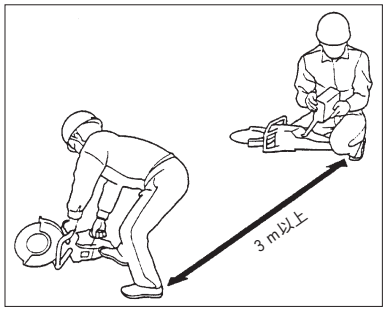
⚠警　告

●エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定のよい場所で行ってください。
始動時は周囲の安全を確認し、一人（補助者なし）で行ってください。



●エンジンがアイドリング時、刃物が回転していないことを確認してください。アイドリング時、刃物が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。

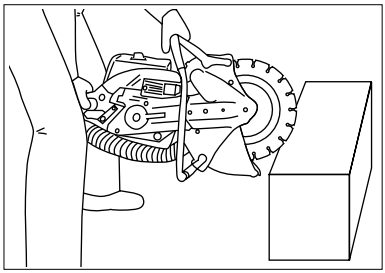
●エンジンの始動は、給油場所から3ｍ以上はなれた場所で行ってください。



1－5　作業

⚠ 警　告

- 本機は胸より下の位置で使用してください。本機が肩より高くなるような姿勢での作業はたいへん危険です。縦切りは水平から斜め下側、横切りはリコイルスターターが上になる状態で行ってください。



- 本機を操作するときは必ず両手で、フロントハンドルおよびリヤハンドルをしっかり握ってください。その他の部分は持たないでください。特にホイルカバーの内側に手を差し込むことのないように注意してください。

- 曲線切り、コジリ、刃物側面の使用は絶対に行わないでください。

- しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。

- 数人で作業するときは、他の人に危険のおよばないよう10m以上間隔をあけて作業してください。

- 本機を使用している人に近づくときはお互いに合図を行い、エンジンが停止してから近づいてください。

- 作業中に本機を落としたり、壁にぶつけたり、何か異物に当たったりしたときは、エンジンを停止し損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、速やかに修理してください。

- 燃料キャップは、緩んでいないか常に注意してください。また燃料漏れを起こさないよう常に増し締めをしてください。

- 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止してください。

- 使用中に火花を発生することがあります、引火や爆発のおそれのある場所では使用しないでください。切断後まわりに火種がないか確認してください。

●電線を切断しないでください。感電するおそれがあります。

⚠注　意

●運転中または運転直後に高温部（マフラー、シリンダーなど）や排気ガスに触れないでください。ヤケドをします。

●切断直後の刃物に直接さわらないでください。ヤケドをします。

●運転中は、高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。

1－6　停止

⚠警　告

●エンジン停止後、あるいはスロットルを離した後も、刃物はしばらく回転し危険です。スイッチを切った時には、刃物が停止するまで両手でハンドルをしっかり握っていてください。刃物の停止を確認した後に本機を地面に置いてください。

1－7　点検・整備

⚠危　険

●点検・整備（刃物交換、ベルト交換、清掃等）を行うときは必ずエンジンを停止し、刃物が停止していることを確認してから行ってください。

⚠警　告

●ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所で行ってください。

●部品交換を行うときは、必ず弊社純正部品を使用してください。他社の部品を使用すると重大な事故になる可能性があります。

●取扱説明書に記述していない点検・整備については弊社営業所に依頼してください。

⚠注　意

●点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1－8　移動・保管

⚠警　告

●移動時や保管時にはエンジンを停止してください。刃物が回転してけがをするおそれがあります。

⚠注　意

●保管の際は、燃料漏れ、破損、事故等を防止するために本機を、転倒しないような安定した場所に、刃物をはずして置いてください。

●年少者（子供）の手が届かない乾燥した場所に保管してください。

●移動時はフロントハンドルを持ち、刃物を後ろ向きにしてください。

● 2～3 日以上保管する場合は燃料タンクを空にしてください。

2．仕様

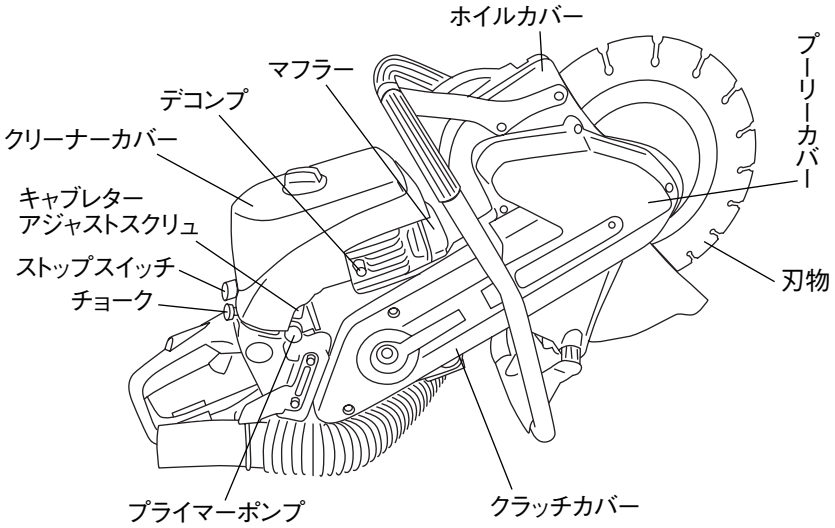
モデル	EK732A
エンジン形式	2サイクル空冷ガソリンエンジン
排気量 mL	73.5
内径×工程 mm×mm	51×36
アイドリング回転数 min^{-1}	2500
最高回転数 min^{-1}	10550
点火方式	電子点火方式（CDI、自動進角式）
スパークプラグ	チャンピオン、CJ6Y
気化器	ダイヤフラム式
燃料タンク容量 L	0.80
燃料	混合燃料（無鉛ガソリン:2サイクル専用オイル=25:1）
最大切り込み深さ mm	120
最高周速度 m/s(m/min)	48（2920）
減速比	3.46
始動方法	リコイルスターター（アシスト方式防塵型）
停止方法	アース式（プッシュスイッチ）
動力伝達方式	自動遠心クラッチ、Vリブドベルト、ギヤ
防振構造	フロント、リヤハンドル独立防振
安全装備	スロットルロック
乾燥質量（刃物を除く）kg	12.2
外形寸法 mm（長さ×幅×高さ）	755×280×480

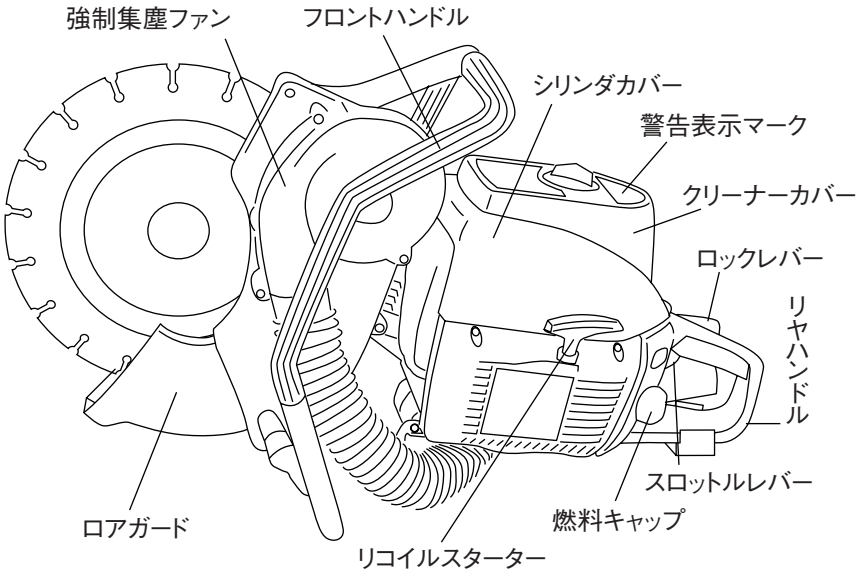
使用刃物

ダイヤモンドホイール 外径Φ305mm	コンクリート用……標準付属品 アスファルト用……別販売品 鋳鉄管用……別販売品

※仕様は予告なく変更することがあります。

3．各部名称


ホイルカバー
マフラー
デコンプ
クリーナーカバー
キャブレター
アジャストスクリュ
ストップスイッチ
チョーク
プライマーポンプ
プーリーカバー
刃物
クラッチカバー

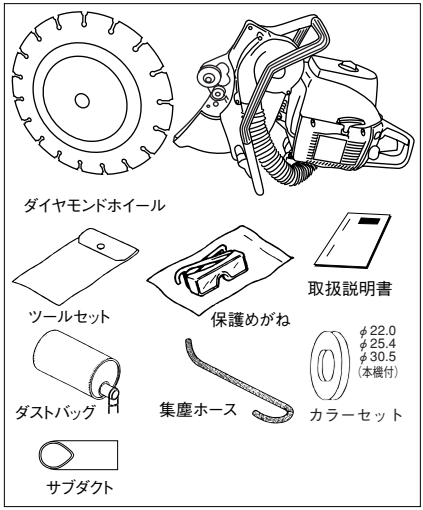

強制集塵ファン
フロントハンドル
シリンダカバー
警告表示マーク
クリーナーカバー
ロックレバー
リヤハンドル
スロットルレバー
燃料キャップ
ロアガード
リコイルスターター

1．シリンダカバー	マフラー、シリンダ、キャブレターをカバーします。
2．マフラー	排気音を減少させます。
3．フロントハンドル	本機の前方にある左手用ハンドルです。
4．リヤハンドル	本機の後方にある右手用ハンドルです。
5．スロットルレバー	エンジンのスピードをコントロールします。
6．ロックレバー	スロットルレバーを作動させる前に押し下げます。
7．プライマーポンプ	タンクからキャブレターに燃料を送るポンプです。
8．キャブレターのアジャストスクリュ	アイドリング回転数を調整します。
9．チョーク	冷えているエンジンの始動時に燃料と空気の混合割合を調整し、スロットルをある程度引いて固定させ、始動性を良くします。
10．ストップスイッチ	スイッチを押すとエンジンが停止します。
11．燃料キャップ	燃料タンクのふたです。
12．刃物	コンクリート、鋳鉄管、鋼材、などを切断します。
13．ホイルカバー	刃物のカバーです。
14．ロアガード	刃物の下側のカバーです。
15．クリーナーカバー	エアクリーナーをカバーしているふた。
16．プーリーカバー	ベルト及びプーリーをカバーします。
17．クラッチカバー	クラッチドラム、ベルトをカバーします。
18．リコイルスターター	グリップを引っ張ってエンジンを始動します。
19．警告表示マーク	警告指示事項を示します。
20．デコンプ	始動時にエンジンの圧縮を抜いて、リコイルの引き力を軽減します。
21．強制集塵ファン	切断時の粉塵を集めてダストバッグへ送るファンです。

4．組立の手順

4－1　外観と付属部品のチェック

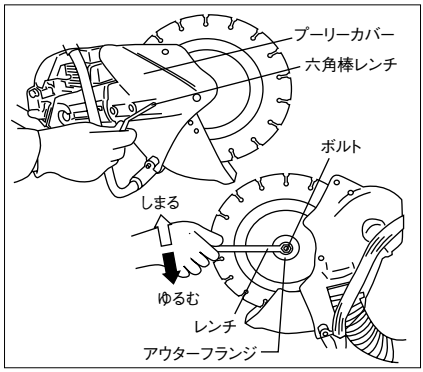
本機は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のために本製品の損傷やネジのゆるみなどがないか点検してください。
また、付属品の欠品がないか点検してください。もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店もしくは、弊社営業所へご連絡ください。



4－2　刃物の取り付け

① 付属の六角棒レンチをプーリーカバーの穴に入れてメインシャフトを固定して下さい。（六角棒レンチは必ず奥まで入れて下さい。）

② 刃物はメインシャフトのカラーにセットするようになっています。
刃物の中心穴にカラーが確実にセットされていることを確認し、アウターフランジを取り付け、ボルトを締め付けてください。



⚠ 危　険

本機は、ダイヤモンドホイール専用機です。といしを装着して使用しないでください。

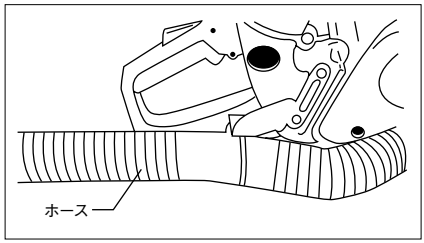
4－3　集塵ホースとダストバッグの取付

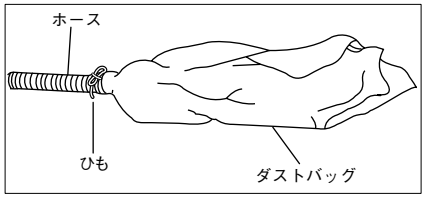
本製品は工場出荷時に集塵ホースとダストバッグは取り付けていません。次の手順で取り付けてください。

① 梱包箱からカッター本体と付属品（集塵ホース、ダストバッグ）を取り出してください。

② 本体に集塵ホースを取り付けてください。ホースは右に回しながら挿入してください。

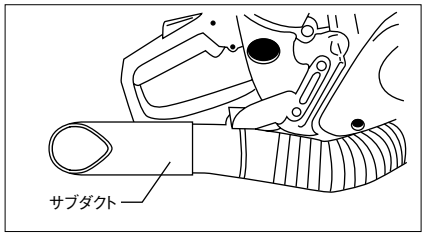
③ 集塵ホースにダストバッグを取り付けてください。（図のようにヒモでしばる）





4－4　サブダクトの使用方法

ダストバッグを使用しない場合にホースの代わりに取付け、ダスト排気方向の調整をしてください。



5．エンジンの始動と停止

5－1　燃料の給油

⚠警　告

火気を近づけないでください。火災の原因となります。

1．燃料

⚠注　意

新品時は、混合燃料の混合比を20：1で約20時間使用してください。また、燃料は必ず混合燃料を使用してください。

新品時20時間使用後燃料は必ず、無鉛ガソリン25に対して 2 サイクル専用オイル 1 の割合で混合した混合燃料を使用してください。

燃料の混合は容器にオイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

		2 サイクル専用オイル
例）	ガソリン	混合比25：1
	(L)	(mL)
	1	40
	5	200
	10	400

2．給油

⚠注　意

給油する前に燃料キャップとその周りを良く清掃してください。異物やゴミをタンク内に入れないでください。燃料は、ゆっくりと給油してください。急いで入れると吹きこぼれるおそれがあります。

燃料は常に新しいものを使用してください。2 ～ 3 カ月以上保存したり、異物が混入した燃料を使用すると、故障の原因となります。

① 給油する前に燃料をよく混合してください。

② 燃料キャップをゆっくり外し、燃料を給油してください。温度が高いと、燃料が吹きこぼれることがあります。

③ 給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

5－2　エンジンの始動

⚠危　険

エンジンを始動する場合、刃物が地面や他の物体に接触していないことを確認してください。始動後すぐに刃物が回り危険です。

⚠注　意

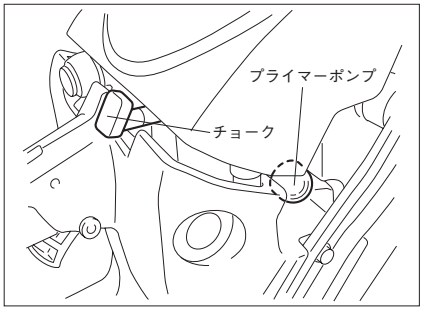
リコイルスターターはアシストスプリング方式を採用しておりますので、軽く引いてもスプリングの作用で簡単に始動することが出来ます。デコンプを使用しない状態で、リコイルロープを極端に速く引き過ぎますとアシストスプリングの破損に繋がりますので、この状態での「落としがけ」は行わないで下さい。始動時にリコイルスターターを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。

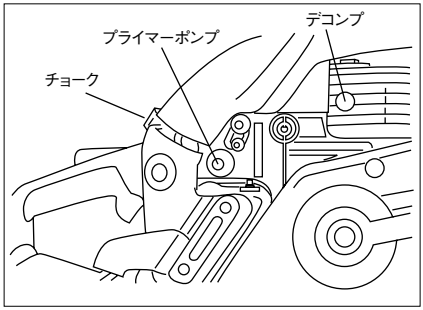
① アジャストスクリューの下側に付いているプライマーポンプ（透明半球形）を押し、ポンプ内に燃料が入り、泡が少なくなるまで押してください。
（始動時）

② チョークを引いてください。
チョークを引くと、始動ロックがかかります。（エンジンが冷えているとき）

〈注記〉
エンジンが暖まっているときは、チョークを一度引いてから戻してください。
スロットルロックがかかります。

③ デコンプを押す。



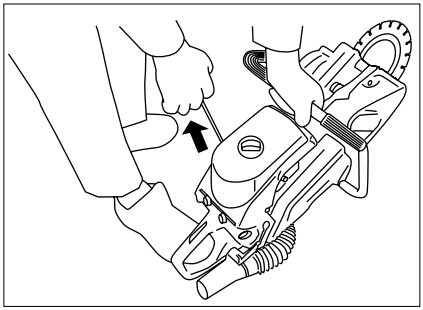


⚠ 危　険

作業者以外の人を作業場所から遠ざけてください。

④　本機を地面におき、右足でリヤハンドルをしっかりと固定します。

⑤　左手でフロントハンドルをつかみ、右手でリコイルスターターをゆっくり引きます。重く感じた所から勢いよく引いてください。



⑥　リコイルスターターを数回引き、爆発音がしたらチョークをもとの位置に押し込んでください。（エンジンが冷えているとき）

⑦　再びリコイルスターターを引いてください。エンジンが始動したらスロットルレバーを少し引いて、始動ロックをはずしてエンジンをアイドリング状態にしてください。

⚠ 警　告

アイドリング時刃物が回転してはいけません。アイドリング時刃物が回転すると危険です。回転する場合はアイドリング調整をして回転数を下げてください。（7－2 項参照）

⑧　アイドリング運転を 2 ～ 3 分間行ってください。

⑨　スロットルレバーを徐々に引いてエンジンの回転を上げていくと、自動的に刃物が回転し始めます。スロットルレバーを戻すと、刃物の回転が停止し、エンジンはアイドリング状態になります。

5－3　始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。

⚠警　告

火気を近づけないでください。火災の原因となります。

① チョークをいっぱいに引いてください。

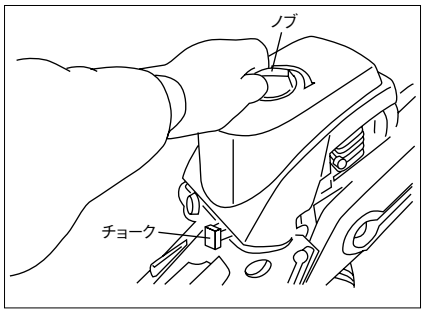
② クリーナーカバー上のノブをゆるめ、クリーナーカバーを取り外し、フィルターのスクリュ 2 本をゆるめ、フィルターを取り外してください。

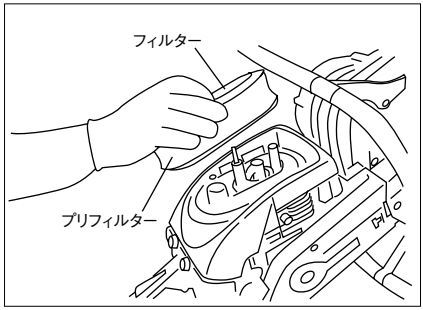
③ プラグキャップを取り外してください。

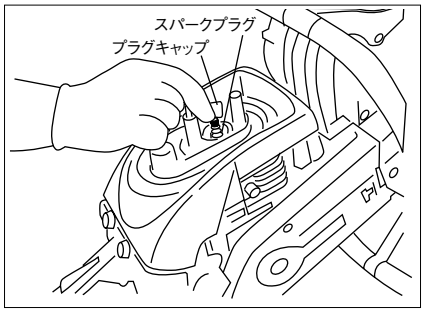
④ スパークプラグを付属のプラグレンチでゆるめて取り外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。

⑤ スパークプラグが濡れている場合は、スパークプラグを乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを引き、数回空転させて燃料をシリンダー内から排出してください。

⑥ スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップを取り付けてください。取り外した部品を元通りに取り付けてください。







⑦　5－2 エンジンの始動の項に従って、チョークを一度引いて戻してから始動してください。

⑧　スパークプラグが濡れていない場合は、燃料タンクから燃料が届いていないので燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。
7－2 、7－12の項の点検をするか弊社営業所にお問い合わせください。

5－4　停　止

エンジンを停止させるときは、スロットルレバーを戻し 2 ～ 3 分間アイドリング運転をしてからストップスイッチをエンジンが停止するまで押し続けてください。

6．切断作業

⚠危　険

■作業する場合、本機を使用する周辺に他の人、子供、動物がいないことを確認してください。誰か近づいてきた場合は、エンジンを停止させてください。
■刃物の上側半分を使って切断しないようにしてください。キックバックが起きることがあります。（1－2 項、キックバック参照）
■本機を使用するときは、保護めがね、保護帽、耳栓、手袋及び安全靴を着用してください。

6－1　切断作業

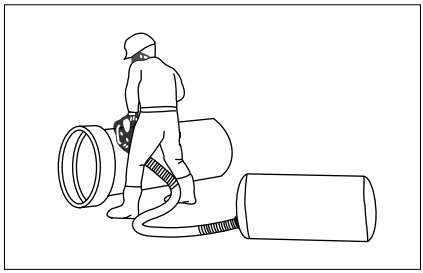
安全に作業ができるよう周囲をきれいにしておいてください。
刃物をまっすぐに当てて、低速回転で切り溝をつくってから高速にして切断してください。

6－2　効率のよい使い方

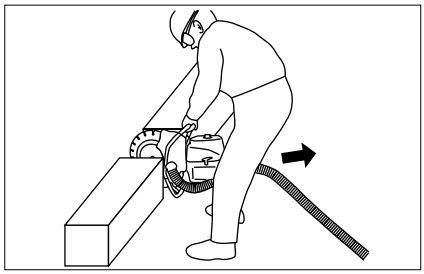
スロットル全開で回転数は8500～9500min^{-1}{rpm}の範囲になるように、刃物を軽く切断材に押し当てて切断するのが最も効率のよい使い方です。
刃物を切断材に強く押し当てて、エンジン回転数を下げて使用するのは使用者の疲労を増し、切断性能が著しく低下します。

6－3　集塵に対しての効果的な切断

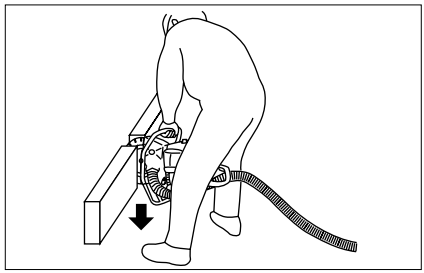
① ロアガードを切断材に当てるように、切断してください。切断材とロアガードが離れると切断粉が漏れ、集塵性能が低下します。



② 強く押し当てすぎてエンジン回転数を下げた状態で、切断しないでください。回転数が下がり過ぎますと、集塵性能も切断性能も低下します。



③ ダストバッグへの粉塵のため過ぎや、ダストバッグの水ぬれは避けてください。
ダストバッグは、最低でも１日１回は中の粉塵を除去してください。
ぬれた場合は、よく乾燥させて使用してください。



④ 切断方向によって、集塵性能が左右されますので、図を参考に切断方向を決めてください。

7．点検・整備

⚠警　告

ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しの良い火気のない所で行ってください。

点検・整備表

項　　目		始動前	毎週	毎月	必要な場合	備　考
エアクリーナー	清掃		○			破れは交換
キャブレター	調整				○	
クラッチドラム	グリース注入		○			
スパークプラグ	点検、清掃			○		
シリンダーフィン	清掃			○		
燃料フィルター	清掃			○		
ダイヤモンドホイール	点検、目立	○				
ベルト	点検、調整		○			
ネジ類	点検、増締	○				
燃料キャップ	漏れ点検	○				
燃料タンク	漏れ点検	○				
ホイルカバー	外観、作動	○				

7－1　エアクリーナーの清掃

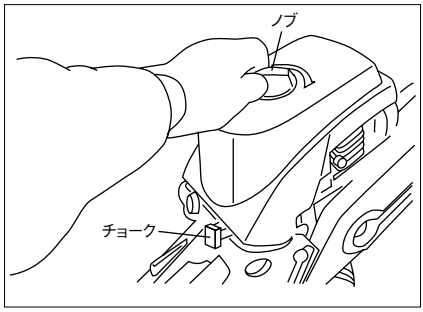
本機のエアクリーナーシステムは、乾式プリフィルター（標準付属品）と湿式プリフィルター（別販売品）を用意していますので、使用状況にあわせてお選びください。

乾式プリフィルター…プリフィルター・フィルター共に清掃が必要ですが、繰り返し使用できます。
湿式プリフィルター…プリフィルターの交換だけで清掃が完了しますが、プリフィルターの再使用はできません。

エアクリーナーの汚れは本機の寿命に大きく影響します。週に一回は必ず点検・清掃をしてください。

1．点検・清掃前準備

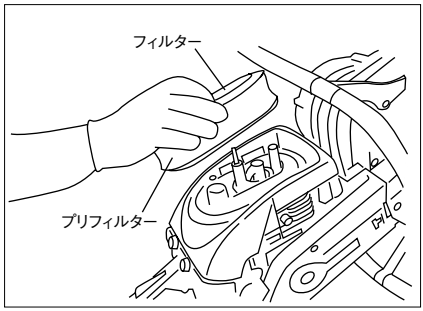
① キャブレター内にゴミが侵入しないように、チョークを引いてください。
② クリーナーカバー上のノブを緩め、クリーナーカバーを取り外してください。
③ フィルター取り付け用スクリュ（2本）を緩め、フィルターを取り外してください。
※空気取入れ部に粉塵が落ちないように注意してください。



2．点検:フィルター内部や、空気取り入れ部が汚れていないか確認してください。もし汚れていたらフィルターを交換してください。

3．乾式プリフィルター（標準付属品）装着時の清掃

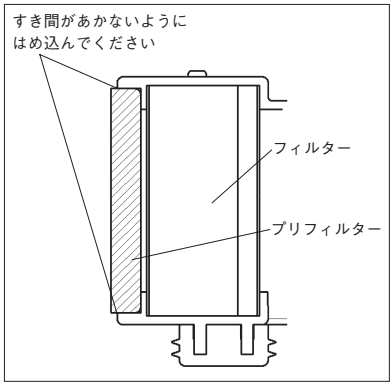
作業前には必ず点検をしてください。
・清掃：週1回
・交換：約20時間ごと、またはフィルターの破損等によりフィルター内部にゴミやホコリが付着している場合。



① プリフィルターをフィルターから取り外し、どちらもエアーガンで内側から外側に向けてエアーを吹き付け、ゴミやホコリを吹き飛ばしてください。
エアーガンがない場合は、はたいてホコリを落としてください。
フィルターは傷つきやすいためコンクリートなどの硬いものにたたきつけないでください。
② フィルターの内側と、シリンダカバー取り付け面の汚れをきれいに取り除いた後、プリフィルターをはめこみフィルターを取り付けてください。
③ フィルター取り付け用スクリュ（2本）を確実に締め込み、クリーナーカバーとノブを取り付けてください。

4．湿式プリフィルター（別販売品）装着時の清掃…専用特殊オイル含浸品（赤色）
・点検：週1回

湿式プリフィルターは粉塵がほとんど透過しないため、内部のフィルターは点検のみで、清掃の必要はありません。プリフィルターを新品に交換すれば再び使用できます。切断作業中にパワーが落ちたと感じたら、プリフィルターの交換をしてください。



① 汚れたプリフィルターをフィルターから取り外してください。
（プリフィルターは使い捨てです）
② フィルターを点検し汚れている場合は、乾式フィルターの清掃手順にそって清掃してください。
③ 新品のプリフィルターをフィルターの溝に、すき間がないようにはめ込んでください。
すき間があると内側のフィルターにゴミやホコリが侵入し、内側のフィルターまで清掃が必要となります。
④ フィルターの内側と、シリンダカバー取り付け面の汚れをきれいに取り除いた後、フィルターを取り付けてください。
⑤ フィルター取り付け用スクリュ（2本）を確実に締め込み、クリーナーカバーとノブを取り付けてください。

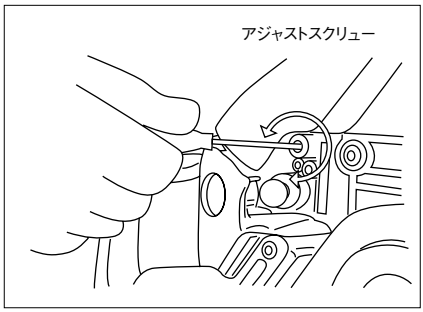
7－2　キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整していますので、調整の必要はありません。気圧、気温、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化などにより、調整が必要になったときにのみ行ってください。調整が難しい場合には弊社営業所にお問い合わせください。キャブレターを調整する場合は、エンジンを始動し、2～3分間の暖気運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は清掃してから行ってください。

⚠危　険

刃物の周辺に人または干渉物がないことを確認して行ってください。
アジャストスクリューの調整時、低速調整時には刃物が回転します。

1．アイドリングの回転調整
アイドリング時に刃物が回らないように調整します。
またエンジンが2300～2700min^{-1}{rpm}で安定して回転するようにアジャストスクリューを調整してください。
時計方向に回すと回転が上がります。



2．低速（L）ニードルの調整範囲

⚠注　意

■無負荷全開運転をするとエンジン回転が高くなりすぎ、焼き付くおそれがありますので、空吹かしはしないでください。
■ニードル調整時、力いっぱい回さないでください。キャブレターボディをいため、調整できなくなります。

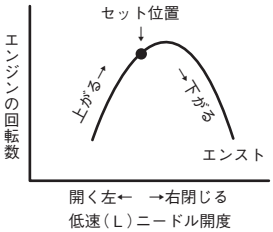
標準開度
Lニードル：$1\frac{1}{2}$回転

標準開度はニードルを静かに、時計方向にいっぱいに回し、全閉したところからの戻し数値です。

3．低速（L）ニードルの調整

① アイドリングの回転速度調整をした後、低速（L）ニードルを反時計方向または時計方向にゆっくり回してみて、エンジンの回転速度が上がる方向に回していきます。更にそのまま回し続けるとエンジン回転速度が低下していきます。

② その低下する寸前のところから約1/2回転反時計方向にもどしてセットしてください。



③ スロットルレバーを急に握ってエンジンが止まったり、回転が落ち込んだりしないで加速することを確認して下さい。

④ 加速性が悪い場合は、低速（L）ニードルを反時計方向に少しずつ回して、アイドリング回転速度を、アジャストスクリュで2300～2700min^{-1}{rpm}にセットし、加速性の確認をして下さい。

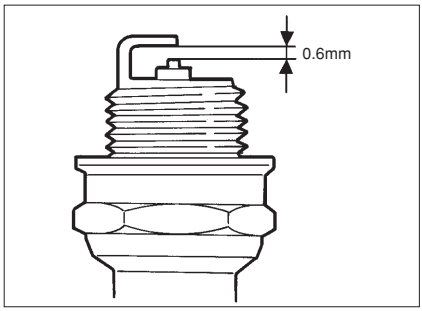
⑤ これを加速性の良くなる所まで行なって下さい。

7－3　スパークプラグの点検

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合はまずスパークプラグを点検してください。

① プラグをはずしてください。5－3「始動困難なとき」の項を参照してください。

② ワイヤーブラシで汚れを落としてください。
必要なら電極間すきまを調整してください。
適正すきまは0.6mm（はがき3枚分）です。



〈注記〉
約100時間運転後、または電極の腐食がひどい場合は交換してください。
スパークプラグは純正品（チャンピオン　ＣＪ６Ｙ）をご使用ください。

7－4　シリンダーフィンの清掃

- シリンダーフィンの間を清掃してください。シリンダーフィンの間にゴミがつまっていると、オーバーヒートや火災の原因となります。

- つまりが多いときはシリンダーカバーをはずして清掃してください。

7－5　ベルトの点検

ベルトは長く使っている間に、張りがゆるんだり、摩耗したりします。プーリーカバーのボルトを緩めて張りの調整をしてください。クラッチカバーとプーリーカバーを外してベルトを点検し、摩耗が激しい場合（はがれ、めくれ、傷、ひび割れなど）は、新品と交換してください。

7－6　ベルトの張りの調整

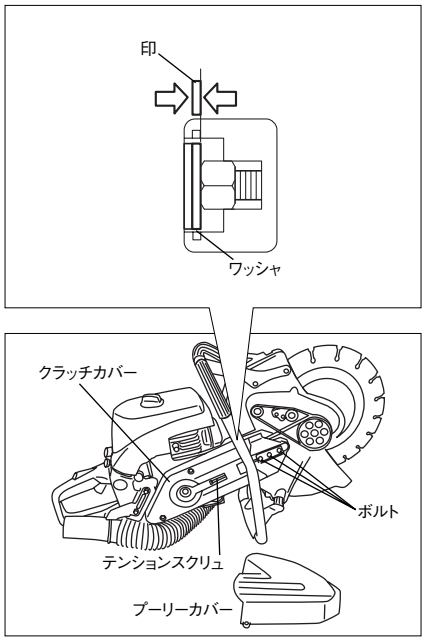
プーリーカバーをはずしてください。

1．メインベルトの調整

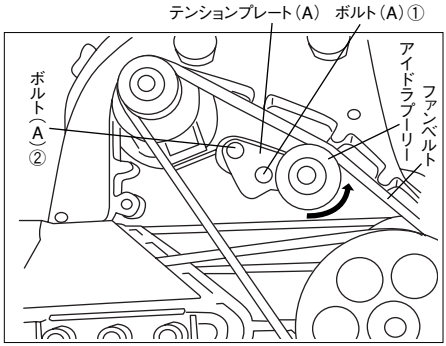
① ボルト 3 本を約 1 回転緩めてください。

② テンションスクリュを回して、クラッチカバーの印にワッシャを合わせてください。

③ ボルト 3 本を締めつけてください。



2．ファンベルトの調整



① テンションプレートのボルト(A) 2本を約1回転緩めてください。

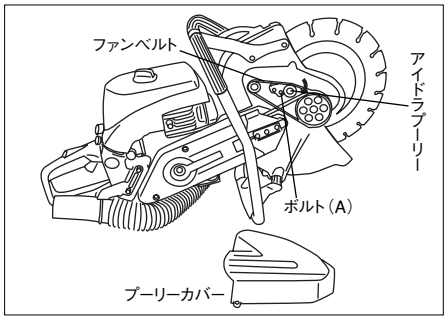
② ボルトを緩めるとばね力でアイドラプーリーが少し反時計回りに動き、正規の張りになります。

③ ボルト(A) 2本を①→②の順に締め付けてください。

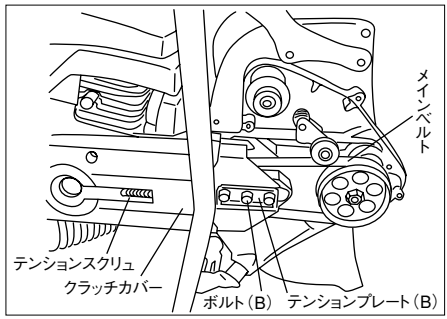
張り調整が終わったらプーリーカバーを取り付けてください。

7－7　ベルトの交換

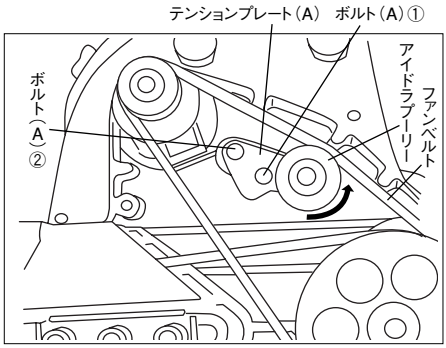
2本のベルトの寿命は、同じ位に設定してあります。ベルトを交換するときは、できるだけ2本同時に行ってください。



① プーリーカバーを外してください。
② ボルト(A)2本を約1回転緩め、アイドラプーリーを時計回りに押し込み、ボルト(A) 2本を締め付けてください。
③ ファンベルトをはずしてください。
④ テンションスクリュをゆるめボルト(B) 3本、テンションプレート(B)をはずしてください。
⑤ クラッチカバーをはずし、メインベルトをはずしてください。
⑥ 新しいメインベルトを組み付け、クラッチカバーを取り付けてください。
⑦ テンションプレート(B)をボルト(B) 3本で締め付けたのち、ボルト(B)を約1回転緩めてください。



⑧ テンションスクリュを回して、クラッチカバーの印にワッシャをあわせてください。（7-6 参照）
⑨ ボルト(B) 3 本を締め付けてください。
⑩ 新しいファンベルトを組み付けてください。
⑪ テンションプレート(A)のボルト(A) 2 本を約 1 回転緩め、アイドラプーリーにファンベルトを静かに掛けてください。



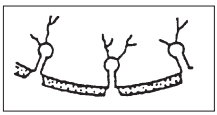
⑫ 手で 2 ～ 3 回ベルトを回した後、ボルト(A) 2 本を①→②の順に締め付けてください。
⑬ プーリーカバーを取り付けてください。

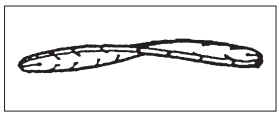
7－8　ダイヤモンドホイールの点検

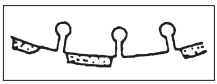
切断性能は刃物の状態によって大きく左右されます。切れ味が低下した時は、目立てを行ってください。切れ味の悪い状態での作業は疲労を増し、切断効率を著しく低下させます。常に適正な状態を保つようにしてください。

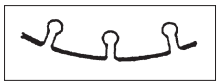
⚠ 危　険

基盤割れ、チップかけ、基盤のひずみ、チップ異常摩耗等のあるダイヤモンドホイールを使用するとダイヤモンドホイールが破損する事がありますので使用しないでください。


（基盤割れ）


（基盤のひずみ）


（チップかけ）

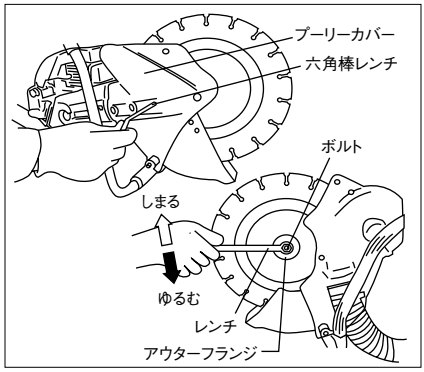

（チップ摩耗）

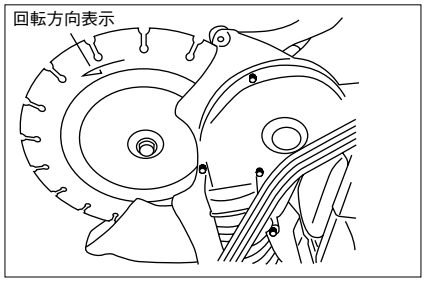
7－9　刃物の交換

① プーリーカバーの穴に六角棒レンチを入れて、ボルトをレンチで回してください。（六角棒レンチは必ず奥まで入れてください。）

② ボルト、アウターフランジ、刃物の順に外してください。

③ 新しい刃物を取り付けてください。
刃物はメインシャフトのカラーにセットするようになっています。
刃物の穴にカラーが確実にセットされていることを確認し、アウターフランジを取り付けボルトを締め付けてください。





⚠危　険

最高使用周速度が70m/s以上のダイヤモンドホイールをご使用ください。

⚠注　意

■ダイヤモンドホイールは回転方向に注意してください。
（ダイヤモンドホイールの表示が上図の通りになるようにしてください。）
■フランジのあたり面にゴミが付いていたら、きれいに取り除いてください。
■刃物は、弊社純正品を使用してください。

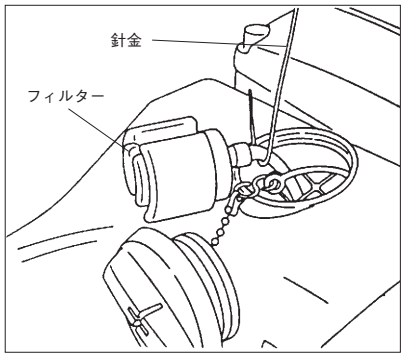
7－10　ダイヤモンドホイールの目立て

刃物をスロー回転（クラッチイン回転数、エンジン回転数約3800min^{-1}{rpm}位）に落とし、コンクリートブロックまたは柔らかいれんがを10回程度切断し、ダイヤの目が出たのを確認してください。尚、ブロックは水をかけて切断する方が効果が上がります。

7－11　燃料フィルターの点検

⚠ 危　険

ガソリンはたいへん引火しやすいので、火気に注意してください。



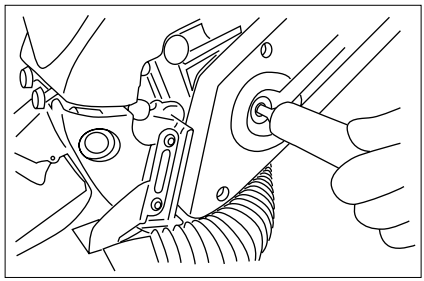
① 燃料キャップを外してください。

② 給油口から針金などで先端のフィルターを引き出して、フィルターが汚れていたらフィルターを交換してください。

③ 交換後、ゴムパイプが折れないようにして燃料フィルターを給油口から、燃料タンク内に戻してください。このとき、燃料フィルターが燃料タンクの底に着いていることを確認してください。

④ 燃料キャップを取り付けてください。

7－12　クラッチ部ベアリングへのグリース注入



クラッチドラムとクランクシャフトの間のベアリングへ20時間毎にグリースをクランクシャフトの端面の穴から適量（図のグリースガンで 3 回押す程度）注入してください。

7－13　ギヤ部のグリス入替え

年 1 回はギヤ部のグリスを入れ替えてください。（マキタグリスN No.2 20ｇ程度）詳しくは、お求めの販売店もしくは、弊社営業所へお問い合わせください。

8．長期保管

⚠危　険

■保管の際は、燃料漏れ、破損、事故等を防止するために本機が転倒しないような安定した場所に置き、刃物を取り外して下さい。
■年少者（子供）の手の届かない乾燥した場所に保管して下さい。

2ヶ月以上使用しないときは、次の整備を行って保管してください。

① 外観を十分に清掃してください。

② 点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。

③ 燃料タンクの燃料を排出しながら、スロットルアジャストスクリュ下のプライマポンプを押しキャブレター及びポンプ内の燃料を排出してください。

④ エンジンを始動し、エンジンが停止するまで低速で運転してキャブレターの中の燃料を空にしてください。

〈注記〉
燃料を2ヶ月以上入れたままにしておくと変質してキャブレターの故障やエンジンが始動しなくなる原因になります。

⑤ クリーナーカバー、フィルター、プラグキャップ、スパークプラグを外し、スパークプラグ穴から少量(1～2cc)のオイルをシリンダー内に流し込み、オイルがゆきわたるように2～3回リコイルスターターを引いてください。

⑥ クリーナーカバー、フィルター、プラグキャップ、スパークプラグを元通りに取り付けてください。

⑦ 刃物を取り外して下さい。

⑧ 屋内の乾燥した火気のない場所に保管してください。

9．修理を依頼する前に

エンジンが始動しない

燃料タンクに新しい混合ガソリンが入っていますか？

スパークプラグが濡れていますか？

- 濡れている
  - ① スパークプラグを乾かしてください。
  - ② スパークプラグの点検を行ってください。（7－3参照）
  - ③ リコイルスターターをいきおい良く引いてシリンダー内の燃料を排出してください。（5－3参照）
- 濡れていない
  - 燃料フィルターの交換

切れ味が悪い

チョークを完全に戻していますか？

エアクリーナーが汚れていませんか？

ダイヤモンドホイールの目立ては十分行われていますか？

ベルトの張り調整は適正ですか？

キャブレターの調整は適正ですか？

これらの点検・整備を行っても症状が改善されない場合は、弊社営業所にお問い合わせください。

１０．別販売品のご紹介

・ダイヤモンドホイール

タイプ／用途	サイズ mm 外径×穴径（厚さ）	品　　番
コンクリート用レーザーブレード	Φ305×Φ30.5（2.7）	A-04911
アスファルト用	Φ305×Φ25.4（3.0）	A-03470
鋳鉄管用金属溶着ダイヤモンドホイール	Φ305×Φ30.5（3.2）	A-36631

・プリフィルター湿式用（品番：ND00000226）
・キャスターセット（品番：ND00000320）

全国に拡がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名	電話番号
札幌支店	〈011〉(783) 8141
札幌営業所	〈011〉(783) 8141
旭川営業所	〈0166〉(29) 0960
釧路営業所	〈0154〉(37) 4849
函館営業所	〈0138〉(49) 9273
苫小牧営業所	〈0144〉(68) 2100
帯広営業所	〈0155〉(36) 3833
北見営業所	〈0157〉(26) 9011
仙台支店	〈022〉(284) 3201
仙台営業所	〈022〉(284) 3201
古川営業所	〈0229〉(24) 0698
青森営業所	〈017〉(764) 4466
八戸営業所	〈0178〉(43) 3321
盛岡営業所	〈019〉(635) 6221
水沢営業所	〈0197〉(22) 5101
郡山営業所	〈024〉(932) 0218
いわき営業所	〈0246〉(23) 6061
新潟支店	〈025〉(247) 5356
新潟営業所	〈025〉(247) 5356
長岡営業所	〈0258〉(30) 5530
山形営業所	〈023〉(643) 5225
酒田営業所	〈0234〉(26) 3551
秋田営業所	〈018〉(863) 5205
宇都宮支店	〈028〉(634) 5295
宇都宮営業所	〈028〉(634) 5295
小山営業所	〈0285〉(25) 5559
水戸営業所	〈029〉(248) 2033
土浦営業所	〈029〉(821) 6086
関東物流センター	〈048〉(771) 3451
埼玉支店	〈048〉(771) 3462
さいたま営業所	〈048〉(777) 4801
川越営業所	〈049〉(222) 2512
熊谷営業所	〈048〉(521) 4647
越谷営業所	〈0489〉(76) 6155
前橋営業所	〈027〉(232) 5575
高崎営業所	〈027〉(365) 3688
両毛営業所	〈0276〉(46) 7661
千葉支店	〈043〉(231) 5521
千葉営業所	〈043〉(231) 5521
市川営業所	〈047〉(328) 1554
成田営業所	〈0478〉(73) 8101
木更津営業所	〈0438〉(23) 2908
柏営業所	〈04〉(7175) 0411
東京支店	〈03〉(3816) 1141
東京営業所	〈03〉(3816) 1141
中野営業所	〈03〉(3337) 8431

事業所名	電話番号
足立営業所	〈03〉(3899) 5855
大田営業所	〈03〉(3763) 7553
江戸川営業所	〈03〉(3653) 5171
多摩営業所	〈042〉(384) 8411
立川営業所	〈042〉(542) 1201
横浜支店	〈045〉(472) 4711
横浜営業所	〈045〉(472) 4711
川崎営業所	〈044〉(811) 6167
平塚営業所	〈0463〉(54) 3914
相模原営業所	〈042〉(757) 2501
湘南営業所	〈0466〉(87) 4001
静岡支店	〈054〉(281) 1555
静岡営業所	〈054〉(281) 1555
沼津営業所	〈055〉(923) 7811
浜松営業所	〈053〉(464) 3016
甲府営業所	〈055〉(276) 7212
金沢支店	〈076〉(249) 5701
金沢営業所	〈076〉(249) 5701
七尾営業所	〈0767〉(52) 3533
富山営業所	〈076〉(451) 6260
高岡営業所	〈0766〉(21) 3177
福井営業所	〈0776〉(35) 1911
岐阜支店	〈058〉(274) 1315
岐阜営業所	〈058〉(274) 1315
多治見営業所	〈0572〉(22) 4921
松本営業所	〈0263〉(25) 4696
長野営業所	〈026〉(225) 1022
上田営業所	〈0268〉(22) 6362
飯田営業所	〈0265〉(24) 1636
名古屋支店	〈052〉(571) 6451
名古屋営業所	〈052〉(571) 6451
一宮営業所	〈0586〉(75) 5382
東名古屋営業所	〈0561〉(73) 0072
知多営業所	〈0569〉(48) 8470
岡崎営業所	〈0564〉(22) 2443
豊橋営業所	〈0532〉(46) 9117
四日市営業所	〈0593〉(51) 0727
津営業所	〈059〉(232) 2446
伊勢営業所	〈0596〉(36) 3210
京都支店	〈075〉(621) 1135
京都営業所	〈075〉(621) 1135
福知山営業所	〈0773〉(23) 7733
大津営業所	〈077〉(545) 5594
彦根営業所	〈0749〉(22) 6184
大阪支店	〈06〉(6351) 8771
大阪営業所	〈06〉(6351) 8771

事業所名	電話番号
東大阪営業所	〈06〉(6746) 7531
関西物流センター	〈0725〉(46) 6715
南大阪営業所	〈0725〉(46) 6611
奈良営業所	〈0742〉(61) 6484
橿原営業所	〈0744〉(22) 2061
和歌山営業所	〈073〉(471) 4585
田辺営業所	〈0739〉(25) 1027
沖縄営業所	〈098〉(874) 1222
兵庫支店	〈0794〉(82) 7411
三木営業所	〈0794〉(82) 7411
尼崎営業所	〈06〉(6437) 3660
神戸営業所	〈078〉(672) 6121
姫路営業所	〈0792〉(81) 0204
広島支店	〈082〉(293) 2231
広島営業所	〈082〉(293) 2231
福山営業所	〈084〉(923) 0960
三原営業所	〈0848〉(64) 4850
岡山営業所	〈086〉(243) 4723
宇部営業所	〈0836〉(31) 4345
徳山営業所	〈0834〉(21) 5583
鳥取営業所	〈0857〉(28) 5761
松江営業所	〈0852〉(21) 0538
高松支店	〈087〉(841) 2201
高松営業所	〈087〉(841) 2201
徳島営業所	〈088〉(626) 0555
松山営業所	〈089〉(951) 7666
宇和島営業所	〈0895〉(22) 3785
高知営業所	〈088〉(884) 7811
福岡支店	〈092〉(411) 9201
福岡営業所	〈092〉(411) 9201
北九州営業所	〈093〉(551) 3481
飯塚営業所	〈0948〉(26) 3361
久留米営業所	〈0942〉(43) 2441
佐賀営業所	〈0952〉(30) 6603
長崎営業所	〈095〉(882) 6112
佐世保営業所	〈0956〉(33) 4991
熊本支店	〈096〉(389) 4300
熊本営業所	〈096〉(389) 4300
八代営業所	〈0965〉(43) 1000
大分営業所	〈097〉(567) 3320
宮崎営業所	〈0985〉(26) 1236
鹿児島営業所	〈099〉(267) 5234
沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711 （代表）

38026-94310Ⓖ